



vol.6

読者の皆さん、いかがお過ごしですか。この冬は例年にないほどの大寒波です。朝になって起きたら、辺り一面が真っ白だった、なんていう日もありましたね。寒い日には家の中でのんびりと、いつまでも本を読んで過ごしたいものです。しかし、迫り来るは学期末テスト。ゆっくり読書…ともいえないのが学生の実情でしょう。さて、そんな時こそ気分転換に学読本舗はいかがですか？もちろん普段本を読まない人も大歓迎、推薦文を読みただけって人も大歓迎。さぁ張り切っていきましょう。学読本舗vol.6の始まり始まり～。

最近はこの活動しています！（12～1月）

最近の学読班は…

12月は主に、メンバーそれぞれのおススメ本の紹介とそれらのまわし読みを行いました。その後、読んだ本の感想交流を行いました。12月最後の班会では、感想交流などを参考に、学読的活字中毒拡大版で紹介する本を決定しました。詳細は、この記事の特集コーナーを参照してください。

書籍からのお知らせ

●ハリーポッター第6弾「ハリーポッターと謎のプリンス」ご予約受付中！

大人気のハリーポッターシリーズ第6弾がついに発売されることになりました。生協でも「ハリーポッターと謎のプリンス」の予約受付を開始しました。もちろん定価の10% OFFにて購入できます。詳しくは生協書籍部のホームページをご覧ください。メールでも予約を受け付けています。

◆発売予定 2006年5月17日

◆定価 3,990円

◆お申込み先

北部書籍 : hokubu-shoseki@coop.nagoya-u.ac.jp (FAX:781-9073)

南部書籍 : nanbu-shoseki@coop.nagoya-u.ac.jp (FAX:781-5019)

医学部書籍 : igakubu-shoseki@coop.nagoya-u.ac.jp (FAX:731-4410)



●2月13日(月)は、文庫新書3冊以上で15% off

そろそろ春休みが近づいてくるころです。テストが終わり春休みになれば、たくさん自由時間ができると思います。2月13日といえば、まだテスト期間中ですが、ちょっとした時間をみつけて本を買いに来てください。ごっそりと買いこみ、春休みに読んでしまいましょう。

学読的 活字中毒

読書好きな輩が送る今月の一作

そろそろ学期末試験が近づいてきました。だから、テスト勉強に追われている人も多くいると思います。テスト勉強に疲れたときに、息抜きとして少し本を読んでみませんか?きっと、よい気分転換になると思います。でも本を読み過ぎてしまい、単位が危ない…ということにならないように、適度に楽しく読みましょう。

◆12月の本◆

まややん
のすすめ

『MAZE』 恩田陸 著
双葉文庫 価格:550円

谷を越えた先にあるのは現実と切り離されたかのような「存在しない場所」、そしてそこに佇む白い直方体の建物通称「豆腐」。舞台は日本から遠い、アジアのどこか西の果ての荒地。ここに立ち入った多くの者が帰ってこないという謎を解くべくやって来た4人の男たちは、はたして人間消失のルールを見出すことができるのだろうか?

「人が消失する」ただそれだけのことなのに、冴え冴えとした恐怖を感じつつも物語に引き込まれていく、そんな一冊です。



保子
のすすめ

『名探偵の掟』 東野圭吾 著
講談社文庫 価格:620円

本書はミステリーのパロディ小説です。「名探偵」天下一代五郎の活躍を描いた短編推理小説集の体裁をとっていますが、話の主眼はミステリーの道具立て—密室殺人や時刻表トリックといったもの—を乱用することで生じるおかしい事態へのツッコミにあります。

ミステリーを読んだことのある人間ならニヤリとしてしまう要素が満載です。しかし本書は単なるお笑い小説ではありません。笑いという手段を用いてなされる、安易な推理小説への批判は鋭いものであり、筆者によるミステリー論といった観さえあります。



～今月の特集～

学読的活字中毒拡大版～本の山で遭難～

1月は通常の学読的活字中毒の拡大版を行いました。学読班メンバーに、それぞれのおすすめする本を紹介してもらいました。学読班の中での感想交流などを参考に、今回の拡大版で紹介する6冊の本を選びました。ここで紹介する本は、どこで紹介しても恥ずかしくない優れた本だと思います。ぜひ一度、読んでみてください。

ハムハム

『ドラえもん学』横山泰行 著

のおすすめ

PHP新書 価格:735円

お正月と言えば、何でしょう？そう、ドラえもんスペシャルですね。
この本には、ドラえもんの生まれるまで、生まれてから世界中に広がるまで、ドラえもんの名シーンが全てわかります。思い出して涙が出そうになります。
大学へ来ていろいろな学問があるなぁと思いましたが、こんな学問もあるのかと思いました。やっぱり自分はドラえもんが好きなんだと再確認できます。



池田
のおすすめ

『李陵・山月記』中島敦 著

新潮文庫 価格:380円

中島敦の作品は中国の古典を現代風にアレンジしたものばかりで一見退屈そうに感じますが、深く読んでみると現代でも通用する内容になっていて、私たちの実生活の教訓ともなるという点は驚くべきことです。

ひとつひとつの作品は非常に短いにもかかわらず、内容の印象が非常に鮮明に残る作品は数が少ないという点でも、特に高校時代に一度読んだことがあるという人に読み返して、再度作品を味わってほしいと思います。

リス
のおすすめ

『七回死んだ男』西澤保彦 著

講談社文庫 価格:620円

S F 的設定を持ち込んで傑作を書く作者の代表作。主人公は一日を何回も繰り返す特殊体質の持ち主で、その中の殺人をなんとかか止めようと奮闘します。名探偵は結論を言うまで助けようとしなから推理小説は嫌いだ、と言う方にお勧めです。

会話はテンポよく、恋愛は美しく、しかも謎解きは理路整然としている本格パズラーです。いくら邪道と言われようと、この作者の小説は本格物です。





リス
のおすすめ

『メガネ男子』ハイブライト 編
出版:アスペクト 価格:1365円

メガネ萌えが最近のブームになっているようですが、これは女性に対してだけではありません。このメガネ男子は、メガネ好きの老若男女誰にでも自信を持ってお勧めできるメガネ萌え本です。まだ一部でしか知られていませんが、次第に知名度が上がり、これから爆発的な人気になると私は信じています。あなたも、このすばらしいメガネの世界をぜひ経験して下さい。おぎやはぎなどの有名人もたくさん出ていますよ。

りじゅ
のおすすめ

『だからあなたも生き抜いて』大平光代 著
講談社文庫 価格:580円

この本は、自殺未遂、極道の妻、司法試験合格…と壮絶な大平光代さんの生き様が生々しく描かれています。この本を読めば、人生の中で多少苦しいことや嫌なことがあっても乗り越えられそうな気がしますよ。ぜひ一度読んでみて下さい。特に、目標に向かって一生懸命勉強している人、人生の壁にぶつかっている人にはお薦めです。



長谷川
のおすすめ

『ほぼ日刊イトイ新聞の本』糸井重里 著
講談社文庫 価格:620円

「流行していないけど面白い物」を見つける天才である糸井重里のインターネットがらみの話。難しい専門用語が出てくるわけではないという点で読みやすい。ホームページは最初はまったく金にならなかったが、将来を見て投資し、今では大御所となっている。決断力と実行力、世の中を見る力が抜群である。これが世の中を動かす力なのだと感じます。



ついこの間、4月だったかと思えばもう2月ですね。月日経つのは早いものですね。気が付けば、あと1か月で春なのだ、と感じます。ところで春と言えば、出会いの時期ですね。読者の皆さん、たくさんの本と出会って、たくさんの刺激を受けて自分の財産にしてください。

文責:学生に読書をすすめる班(学読班)